

AMDA

多様性の共存

ジャーナル

特定非営利活動法人アムダ (AMDA)
<http://amda.or.jp/>
 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
<http://www.amda-minds.org/>
 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
<http://amda-imic.com/>

2011年3月。まだ緊急医療チームが被災地で活動する中、津波で文具を流されてしまった学生のために何かできることはないかと発案したAMDAの要請を受け、広島県教育委員会が県内の高校に呼びかけ、文房具を集めました。その贈呈された文具を、生徒の個人個人に配布しやすいように、岡山県内の学生がボランティアで仕分け活動を行ってくれました。そして、まだ余震が続く4月の半ば2011年4月15、16日には広島県内の高校生4名(誠之館高校、黒瀬高校各2名)が、当時避難所となっていた大槌高校を訪問し、文房具の贈呈が実現しました。避難所では物資の仕分けや食事の片づけなどのボランティア活動も行い、絆を深めました。



4.10 岡山の長泉寺にて文具の仕分け



4.15 大槌高校にて物資の仕分け作業をする広島の高



大槌町内を見学する広島の高

2012年4月25日 VOL.35 第261号 定価550円
 発行/AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
 E-mail:member@amda.or.jp
 郵便振替:01250-2-40709 口座名:特定非営利活動法人アムダ

2012年
春号

春

緊急救援 救える命があればどこへでも

東日本大震災復興支援 “絆”深めるコンサート

3/18 協力:広島県の高等学校・特別支援学校生徒のみなさん 会場:中国新聞ホール
 3/19 共催:おかやまコープ 協力 両備バス、黒住教、RNN、岡山経済同友会 会場:オルガホール



岡山会場:演奏する大槌高校吹奏楽部



広島会場...黒瀬高校による和太鼓の演奏



岡山会場...就実高校吹奏楽部からのプレゼント

そして2012年3月。AMDAを通じて被災地をご支援くださった方々へ、大槌からの感謝の思いを伝える「絆コンサート」を開催しました。約20時間かけて大槌町からやってきた一行は、疲れた様子も見せず、岡山、広島の両会場で最高の演奏を披露しました。18日の広島会場では、広島県立安古市高校生との合同演奏や和太鼓との共演の他、様々な交流が実現しました。翌日には平和祈念館の見学も実施しました。19日の岡山コンサートは、おかやまコープと共催のもとオルガホールで開催され、就実学園就実高等学校、中学校との共演を行いました。運営、司会進行などはAMDA高校生会が担当し、活動報告のプレゼンテーションも実施しました。AMDA高校生会は、震災直後から街頭募金など高校生ならではのボランティア活動を実施してきました。また、懇親会では、学生が主体となってさまざまなパフォーマンスで会場を盛り上げてくれました。会の最後には就実学園の小林教諭の掛け声により、会

場に居た100人ほどの小学生から大人までが、大きな1つの輪になり、手をつないで「Belive」をアカペラで熱唱。岡山と岩手で1000キロ以上離れてはいるけれど、歌を通して気持ちをひとつにし、これからも繋がっているということ強く感じた1日となりました。

大槌高校吹奏楽部顧問の金丸教諭は「震災直後、自分たちが目の前のことに必死に対応し、部活や音楽のことは考えられなかった。そんな中、生徒の方から、いつから再開しますか?と質問があり、学生の力強さ、音楽の素晴らしさ、求心力を改めて感じた。今回こうしてここに居られるのも、支援してくださったみなさんと学生のおかげ。本当に感謝しています」と話してくれました。また大槌高校吹奏楽部部長は「本当に自分たちはたくさんの人に支えられていると実感しています。本当にありがとうございます。こんなに離れていても、僕たちは音楽でつながっています。これからは復興に向けて頑張ります!」と力強くメッセージを送ってくれました。

緊急医療支援から復興支援 ～震災から1年が経過して～

2011年3月11日に発生した未曾有の東日本大震災・津波から1年、特に寒さの厳しかった2011年の冬を超えて、被災地にも春がやってきました。

災害発生から緊急支援

AMDAでは災害の発生を受け、11日より緊急支援活動体制となり、翌12日より緊急医療支援活動を開始しました。宮城県仙台市を最初の活動地とし、続いて岩手県上閉伊郡大槌町、岩手県釜石市、宮城県本吉郡南三陸町と4つの市町で緊急医療支援活動を実施し、4月20日までに延べ149名の緊急医療スタッフを派遣しました。ほかにもこれまでの活動で関係のあった支援企業、支援団体、協力自治体などの力を借りてトラックでの物資供給なども行い、海外とのつながりの中で海外からの医療チームの受け入れなどを行いました。さらには、直接的な医療行為以外でも、枠にとらわれることなく、被災地のニーズに合わせた柔軟な支援活動を展開し、その活動は被災者の方から高く評価されました。地元医療が保険診療を再開する目途が立つ時点を、緊急の無料診療活動の終了時期と考え、4月20日をもって緊急医療支援体制を終了し、復興支援活動へと転換しました。

これまでの復興支援活動

AMDAでは「医療支援」「教育支援」「生活・自立支援」の3つの分野において、現地のニーズを常に見極め支援活動を継続しています。その3つの分野において、以下のような活動を行い、5月1日からこれまでに（3月末）125人の医師、看護師、調整員などを被災地に派遣しました。（支援活動地：岩手県上閉郡大槌町、岩手県釜石市、



仮設志津川診療所



1.30 志津川診療所の地元看護師の方々と派遣の浅野看護師

岩手県大船渡市、宮城県本吉郡南三陸町、宮城県仙台市、宮城県気仙沼市、宮城県石巻市雄勝地区)

■医療支援

①被災地医療 復興支援

志津川病院（南三陸町、登米市）へ、夏季、冬季、春季に医療スタッフの派遣を実施しています。緊急時にAMDAチームで派遣されたことのある医療スタッフを中心に派遣を実施することで、志津川病院側での受け入れの負担軽減が図れるだけでなく、病院スタッフの方々の精神的な支えともなっています。

猪苗代病院（気仙沼市）には入院患者用のベッドや医療機器などの提供のほか長期勤務が可能な看護師の呼びかけなどを実施しています。

さらに緊急医療支援活動時に活動を共にした、被災地の医師らの独立、開業に医療機器、医療物資などの支援を実施しています。

現在新たに、石巻市雄勝診療所への支援活動を鍼灸治療を中心に行っていく予定です。



志津川病院の医療器材支援金を贈呈するため、病院を訪れたそねざきロータリークラブの高波会長（左）と受け取る横山事務長



2.10 大槌健康サポートセンターでの佐々木鍼灸師の治療

②AMDA大槌・健康サポートセンター

緊急医療支援期にニーズの高かった鍼灸治療と、崩壊した地域のコミュニティスペースを確保するために、岩手県上閉伊郡大槌町にAMDA大槌・健康サポートセンターを建設、12月18日オープンしました。現在施設の半分のスペースを鍼灸院とし、大槌町在住のAMDA鍼灸師が毎月約100人程度の鍼灸治療を行っています。さらに施設の半分を、地域のつながりがバラバラに仮設に居住することとなった被災地域の人々が、地域の方々の交流の場として運営し、立ち寄りお茶を飲んだりする、日常の交流の場となっており、3月末までにのべ638人以上の方が利用しています。



4.6 大槌健康サポートセンターでの郷土料理教室

■教育支援

① AMDA 国際奨学金の支給

2011年度には7校84名の奨学生に月額15,000円(年間18万円)を支給しました。ここで24名が卒業を迎えます。3月にさらに本事業へのご寄附額が加わり、卒業生を除いた奨学生支給額を上回ったことから、2012年度には対象となる奨学生を増やすことが決定しました。

② スポーツ交流事業

2011年8月には、大槌中学校、釜石中学校、志津川中学校の3校を岡山へ招聘して、岡山の中学生とともにサッカーやホームステイを通じて交流を深めました。2012年度は、AMDAがこれまでに緊急医療支援活動を実施した海外の地震被災地とのスポーツ交流を予定しています。

③ 絆コンサートの開催

多いときには1000人を超える避難者が滞在した岩手県立大槌高等学校(岩手県上閉伊郡大槌町)は、AMDAが緊急救援活動を行った拠点のひとつです。当時在校生のボランティア活動には目を見張るものがありました。昨年3月に広島と岡山からの文房具を贈呈し、大きな余震の続く中、広島の高校生4人が駆けつけました。1年後、その岩手県立大槌高等学校から吹奏楽部を広島、岡山に招へいし、吹奏楽交流として「絆コンサート」を開催しました。この1年で、AMDAを通じて、多くの支援者の方の善意が大槌町をはじめとする被災地に届きました。震災から約1年という節目の時期に、音楽を通じて感謝の気持ちを支援者の方へ直接贈る機会となりました。

④ 制服支援と副教材支援

岩手県立大槌高等学校の要請を受け、平成24年度の新入学生のうち、被災して制服の購入が困難である学生への制服購入資金の支援を行いました。また宮城県南三陸町立志津川中学校では、教科書以外に必要な副教材の各自購入(一人当たり約2万円)が被災者にとって負担であるという相談を受け、副教材に充当する支援金を中学校に贈呈しました。



大槌高校の被災した新入生のための制服支援を、黒住教様、(株)山田養蜂場様、AMDA共同で行い、3月19日米岡中の高橋校長先生に支援金を贈呈しました



志津川中学校副教材支援金を廣栄堂様よりいただきました

■生活、自立支援

① 被災地間相互交流支援

被災者にしか共有できない思いを分かち合うことで、復興、自立に向けての被災地間の絆形成を目標として、「被災地間相互交流事業」を支援しています。1回目として3月4日に、2回目として4月9日に大槌町(岩手県)、気仙沼市(宮城県)との交流が実現し、大きな成果が見られました。2回目実施の際には両市町の商店街が、今後ともさらに絆を深め、ともに復興に進んでいこうという思いを込めて、姉妹提携の協定を締結しました。今後も積極的に被災地の声を取り入れ、被災地間の相互交流を支援していく予定です。

② 震災ホームレス支援

東日本大震災から10か月が過ぎ、被災地では新たな問題として「震災ホームレス」が急増しています。そこでAMDAではカップ麺や、カイロ、簡易寝袋などを提供するなどの支援を行っています。



4.9被災地間相互交流会で協定調印



3.4被災地間交流…大槌町から気仙沼に向いた白澤菓子踊り

復興支援活動2年目に向けて 復興支援3か年計画

AMDAでは震災直後から、復興支援として震災から3年間被災地の支援を継続していくことを掲げています。震災から1年が過ぎ、被災地からのニーズは徐々に変化しています。復興支援においても、これまで同様AMDAの人道支援3原則:「誰でも人の役に立ちたい気持ちがある」「その気持ちの前に民族・宗教・年齢等の壁は無い」「援助を受ける側にもプライドがある」に沿い、AMDAならではの柔軟な復興支援活動を実施してまいります。これからもご支援よろしくお願いいたします。

WCRP 日本委員会 篠原祥哲様からのメッセージ

AMDA様の健康サポートセンターが開設され、多くの大槌町の方々が足を運ばれていること、本当に素晴らしいことと思います。震災当初からの迅速な対応や行動の具体性、そして地元の住民のきめ細やかなサポートなど、その活動に感服しております。また、私たち、WCRP日本委員会の取り組みに対しても、献身的にご協力を頂いておりますこと、心から感動しております。私は、大槌町において、AMDA様の「真心」というものを、様々な活動を通して学ばせて頂いております。今後、WCRPもAMDA様とともに、震災復興に向けての道のりを共に歩ませて頂ければ有り難く存じます。どうぞよろしくごお願い申し上げます。

WCRP:世界宗教者平和会議

AMDA 東日本大震災国際奨学金を受け、今春卒業する学生さんの声

AMDA 東日本大震災国際奨学金を授与され、3月に卒業された岩手県立釜石高等学校・岩手県立釜石商工高等学校・岩手県立大船渡高等学校・仙台医健専門学校・宮城県志津川高等学校、東北朝鮮中級学校の学生の方々の、卒業にあたっての抱負をご紹介します。

AMDAでは2011年度、7校84人を対象に奨学金(18万円/1人/年)を授与しました。この奨学金は、2011年から2013年度までの3年度の期間限定奨学金で、35団体*と547人の個人の方々から3554万円余のご寄付をいただき(2012年2月29日現在)、奨学金として各個人に送金しています。新年度からは、さらに奨学生を増やしていきます。

*10万円以上のご寄付をいただいた団体(敬称略)

ネットワーク地球村、(株)山田養蜂場、(財)新日本宗教団体連合会、ニューヨーク日本商工会議所、ユニゾン・キャピタル・パートナー(株)、茅ヶ崎中央ロータリークラブ、アンダーワークス(株)、国際ソロプチミストアメリカ日本西リジョン、(株)東屋、(公益社団)日本フィランソロピー、グローバルギビングファンデーション(2012年2月29日)

◆3月11日、いつものように6時間目の授業を終え、廊下に行ったときでした。長い地鳴りが聞こえ、皆がえっと思った瞬間、強い揺れが始まりました。揺れは全くおさまらず強くなるばかりで、やがて電気が消え、1組の天井から水がふき出てきました。行間だったこともあり先生がおらず私たちはパニックでした。本当に本当に怖い体験をしました。それから津波が街を襲い、ほとんどの生徒が家に帰れず体育館で不安な夜を過ごしました。

私は今卒業という新たな人生への一歩を踏み出す立場にあります。この1年間を振り返ってみると、様々な面で環境の変化がありました。大変なこともありました。でもそれ以上に感じたのは支援の温かさです。メッセージつきのお菓子はとても温かい気持ちになり、遠く離れた場所にも気持ちは伝わるのだと思いました。文房具は受験生という立場で被災した私たちにとって、頑張ろうと思えるきっかけになりました。その他にも物だけでなく様々な心温まるメッセージや想いをいただきました。終わらない余震への恐怖や、慣れない環境へのストレスを和らげ、私たちを今日まで支えてくれたのは、私たちを思ってくださる一人一人の気持ちだと思います。たくさんの支えがあって私たちは今、卒業を迎えることが出来ます。本当に感謝でいっぱいです。ありがとうございました。

これからも先、またこのような自然災害がどこかで起こることがあるかもしれませんが、もしそのようなことがあったら、今回の震災での温かい支援を思い出して、日本に限らず世界各地に恩返しをしたいです。自分が出来る事を率先して行い、少しでも復興に貢献したいです。私は大学進学のため東北3県から出てしまいますが、岩手を愛する気持ち、海を愛する気持ちは変わりません。復興元年である今年、震災直後に比べれば見違えるほどに元の景観に戻りつつあります。しかし、復興まではまだまだかかると感じます。だからこそ何年経っても震災を風化させたくないし、被災地で頑張る人々のことを忘れないでほしいです。改めてたくさんの支援をありがとうございました。決して忘れません。

◆たくさんの温かい支援ありがとうございました。

3月11日、それからのこと、大変だったことはこれからもきっと忘れることはありません。忘れることなどできないでしょう。私の家は被災しませんでした。友達、友達の家族、たくさんの人が辛い思いをしました。物資の支援はもちろん役立ちました。うれしかったです。でも、何よりも、私たちの心に寄り添ってくれた、たくさんの人の温かい気持ちに励まされました。こうして受験を終え、卒業式を迎えられたのはみなさんのおかげです。たくさんの人の支えがあって釜石高校は徐々にではありますが、前に進み始めました。復興元年、またさらに頑張っていきます。見守っていただけたらうれしいです。

最後に、本当にありがとうございました。

◆長いようで短かった。そう思えるのは、高校生活が充実していたからだと思う。入学する前、漠然と考えていた。そろそろ進路を真剣に考えないと。

1年生の頃は毎日が新鮮で、1日1日が楽しすぎて進路のことなど頭になかった。2年生になり、バレーボール部の部長になった。コーチの指導がつくようになり、以前よりも練習が厳しくなり、チームメイトの誰よりも怒られるようになって、部活が恐くなったときもあった。部活へ行くときの電車の中、今日はコーチが来ませんようにと何度も祈っていた。初の公式戦では結果を残せず、キャプテンとしての自信をすっかり落とした。落ち込んでいた時に、周りの人たちから励まされたことがあり、何度も助けられた。徐々に力を付け始め、高総体に向けて熱が入ろうとしていた矢先、3月11日に大震災が起きた。

たくさんの人たちが困難な状況に陥り、部活動や受験どころではなくなった。満足な練習をすることができず、いらだちを覚えた。こんな時に、部長としてどうすればいいのか分らなかった。最後の高総体では、試合の途中で大怪我をしまい、チームとしても1回戦で負けて終わってしまった。それでもチームメイトは頑張ってくれた。ベンチからただ声を出すことしかでき

なかった自分が情けなく、バレーボールなんてやっていなければよかったとさえ思った。

しかし、松葉づえ生活や手術、入院、リハビリを経て、たくさんの人たちに支えられていることに気づいた。また、障害のある人やケガを経験した人たちの心の強さを知ることができた。私は大学で福祉について学び、福祉の仕事で釜石に貢献したいと思っている。

被災地では、親を失くしてしまった子どもがいたり、これから先は経済的に苦しくなってしまう人が増えていくことが予想される。また、新しい町づくりをするときには福祉を充実させるべきだと思う。人を支える福祉の仕事をしたと思うようになったきっかけは、震災と怪我だった。大変なことばかりが起こったが、自分と向き合い、将来について考えることができた3年間だったと思う。

◆この三年間、自分は本当にたくさんの人の支えがあって卒業まで来ることができたと思う。その中でも友だちは、心の支えであるとともに自分を高めるための良きライバルであったと思う。そして先生方には、自分の能力を引き出し、導いていただいたことに感謝している。震災もあり、その他にもたくさんの人のお世話になってきた。少しでも、思いを返せるように、卒業後は社会のためになれるような人材になれるよう自分を高めるようにがんばっていきたい。

◆私は、県外の看護専門学校への進学が決まりました。

東日本大震災津波によって自宅は全壊し、さらに父の職場も被災し、厳しい現実を突きつけられました。しかし、そのような状況にあっても、一人でも多くの命を救おうと必死に活躍する医療機関の方々の姿は、看護師になりたいという思いを、揺るぎないものにしてくれました。

経済状況の激変で一時は就職も考え、家族や親戚などみんなが応援してくれたこともあり、やはり自分の夢を追いかけようと決意を固めました。何よりも、AMDAグループをはじめ全国各地からたくさんの熱いご支援をいただき、今こうして夢に向かってスタートラインに立つことができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

被災後の生活においては、たくさんの方々へのご恩をひしひしと感じています。私が立派な看護師になり、患者さんのために働くことこそ支援して下さった方々への恩返しだと考えています。また、震災の余波で亡くなった祖父や親戚に誓ったように、一人でも多くの方々の命を助けられる、医療や看護の知識と技術を兼ね備えた看護師になりたいと思っています。

これから新しい環境で一からのスタートを切る事になりますが、日々努力を忘れず前進していきます。一日も早く地元の医療

に貢献できる日を迎えられるよう、ふるさとの復興を祈りながら勉学に励んでいきたいと思っています。

◆私は高校卒業後、将来の夢だった介護福祉士になるため盛岡医療福祉専門学校の介護福祉学科に入学します。そして、介護福祉士に必要な知識・技術を二年間しっかりと勉強をして、介護福祉士の資格を取得できるように頑張りたいと思っています。介護福祉士を目指している理由は、私の祖父が病気になり、母と祖母で一週間ごとに看病と介護をしながら、祖父の世話をしていました。

私は、介護している姿を見て、介護の知識・技術を専門学校でしっかりと勉強したいと思い、盛岡医療福祉専門学校を選びました。さらに出来る事ならば、社会福祉士の資格も取得したいと思っています。そして、社会福祉士を目指すなかで、専門的知識及び技術を取得し、精神障害や日常生活において、支障がある方々などに対し、相談に応じたり、助言したり、指導、福祉サービスや保健医療サービスを提供できるような人になりたいと思っています。

専門学校の卒業後は、高齢者福祉施設や身体障害者福祉施設、特別養護老人ホーム、母子生活支援施設、訪問介護などで、介護者や相談者を支えながら、しっかりと仕事をしたいと思っています。

◆この2年間の学生生活で多くのことを学びました。2年次に震災がありました。両親の支え、また AMDA さんのご支援により学生生活を続けることが出来ました。多くのスポーツの勉強をしていく中で、スポーツをすることによって介護予防や日常生活活動の改善にもつながることがわかり、福祉のことに勉強する中で興味を持ちました。福祉に関しては少しは勉強したいという思いがありましたが、スポーツと福祉の関係が繋がるとは思いませんでした。もっと詳しく勉強するためにヘルパー2級の資格を取得しました。就職のため、将来必要となるため必死で取得しました。就職にあたり福祉の仕事に就くことに内定をいただきました。途中で学校を辞めていたら夢を諦めてしまうところでした。これもいろいろな方々のご支援をいただいたおかげです。その感謝を忘れずに社会人になっていきたいです。またご支援をいただいた AMDA さん、サポートして下さった先生方には大変お世話になりました。この

お礼は社会人になって自分の活躍している姿がお礼のお返しと思っているので頑張りたいです。また支えてくれた両親にも感謝を忘れず今度は私が支える番なので頑張りたいです。

◆3月11日の東日本大震災から1年が経ち、私はたくさんの人に支えられ無事卒業に至りました。

私は震災当初は医療の道に進むと決めてからも、職種を明確にはしていませんでしたが、震災を経験して体の不自由な人、心に傷を負った人を見て人々の手助けになれるような仕事に就きたいと考えるようになりました。その結果、作業療法士の専門学校に進学することができました。震災当時は助けを必要としている人々にもしてあげることができないことがもどかしく自分の中に葛藤がありました。ですが今は、目標に向かって努力できることに幸せを感じ希望を持つことができます。また、それは、決して当り前のことではなく、AMDA 様の奨学金をはじめ、家族、友人、学校の先生方、その他たくさんの人のおかげだと思います。

将来は、地元に戻って地域のために尽力したいと考えていますが、私の故郷は1年が経った現在でもガレキが山のように積み重ね復興にはほど遠い状態です。病院すら仮設のものがあります。本当の復興は何年先になるのかは分かりません。しかし、その復興を担っていくのは間違いなく私たちの世代です。これから見事に復興していくであろう故郷の力になれるように3年間、作業療法士としての技能、知識はもちろん、人間としても大きく成長できるように、日々精進して参りたいと思います。

◆私は、この春、志津川高校を卒業し、仙台青葉学院短期大学に入学します。私には、将来地元である南三陸町に戻り、在宅看護にたずさわりたいと考えるお年寄りの方々の力になれる看護師になるという夢があります。そのような看護師になるためには、看護についての広い知識、在宅で生活をされている方の介助をしている方の気持ちや苦勞を理解することが必要だと考えています。

進学先の学校では、在宅介護を支援しているサークルや、地域医療について学ぶ機会がたくさんあるので、私の理想とする看護師になるために必要な事が身につけられると思いました。

これから、在学中は、つねに国家試験を意識し、熱心に勉強に取り組むとともに、看護師は体力が必要だと思うので体力づくりに取り組んでいきたいと思っています。また、ボランティアや在宅介護支援サークルに参加し、コミュニケーション能力や、講義では学べない実際の在宅で生活をしている方の声を聞いて、今の在宅看護には何が必要なのかを学び、身につけていきたいと思っています。

そして、看護師になり、何年か他の病院で経験をつんだら、私の故郷である南三陸町に戻り、津波の影響でなくなってしまった在宅看護支援センターで働きたいと考えています。そして、家で過ごしたい家族と一緒に家にいたいと考える高齢者の方々の力になってあげたいです。

強くたくましく、誰にでも気軽に相談事を話してもらえそうな頼れる看護師になれるように、勉強に実習に取り組んでいきます。多くの支援ありがとうございました。

いつか、AMDA のみなさんと一緒に働けたらうれしいです。

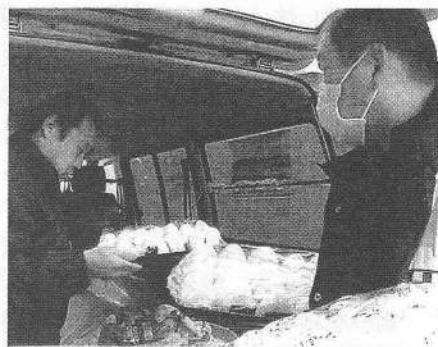
毎日新聞 2012年2月27日(月)

< 8Pへつづく >

震災支援した東北の朝鮮学校

国際医療救護団体の AMDA (本部・岡山市) は、東日本大震災で被災した東北朝鮮初中級学校(仙台市)の生徒に奨学金を支給した。同校が震災直後、寄せられた支援物資を日本人の避難所に分配した活動に共感したもので、尹錫伍校長は「朝鮮学校の授業料無償化が実現しないが、日本の学校と同じように支給してくれた」と感謝している。同校では在日コリアンや近所の住民ら約50人が避難生活を営み、全国の在日コリアンから食料や医薬品などの救援物資が届いた。一人でも多くの人に物資を届けようとして、同校の避難者たちは食事朝夕の回を制限し、近隣の小学校や市民センターなどにそれぞれ200人分のおにぎりを握って届けられた。また中学校で炊き出しなどもした。尹校長は「震災に国境はない。みんなで難局を乗り越えるのに」

共感した! AMDAが奨学金



仙台市の避難所におにぎりを届ける東北朝鮮初中級学校の関係者たち—記録映画「東日本大震災 東北朝鮮学校の記録」2011. 3.15-3.20から(尹校長提供)

必死だった」と振り返る。人が対象となり、同校では震災後、AMDAの管轄、中級部(中学生)の11人(13歳代表は医療関係の仕事で15歳)が受け取った。同校は被災地の高校生への奨学金支給を計画。ノンフィクション作家の高橋伸一に贈られた寄付金を充てた。菅代表は「同校の支援活動を知り、被災しながらの助けは、AMDAのモットーである奨学金は、高校などに在相互扶助の精神と一致する希望者に年間18万円を支給。これまでに7校84

2012年3月2日
東北朝鮮初中級学校
震災が、あつて糸々1年がたちました。ほくかたの学校は使えなくなり宿舎で勉強を続けてはりました。最初ほくかたを思っていたが、いよいよ復をもらて心が、いよいよなりました。ほくかたは、この会に心えて勉強をがんばり自分たちの夢をあまりあきらめず夢をかみきれるように努力します。
Never Give Up精神で元氣を張っていきます!

タイ洪水緊急医療支援活動とタイ救急医学会との連携協定書調印

2012年3月20日バンコク市内の国立ラチャウィティ病院にて、AMDAとタイ救急医学会（TAEM: Thai Association of Emergency Medicine）の協力協定書の調印式が行われました。

AMDA側の代表としてAMDAグループ副代表の小林米幸医師が、TAEM側の代表としてTAEM理事長のサン・ハティラット医師が協力協定に署名しました。国立ラチャウィティ病院のジナラタナ院長をはじめ、同病院で救命救急の講習を受けている全国の若手医師・看護師らが式典に出席しました。

■ AMDAは2011年10月にタイ中部で発生した洪水被害のために、3度に



左から AMDAグループ副代表 小林米幸医師、TAEM理事長 ハティラット医師

わたり緊急医療支援チームを日本から派遣し、タイ救急医学会の協力を得て、バンコクとその近郊4県（ナコンサワン県、ノンタブリー県、パトゥンタニ県、ナコンパトム県）で巡回診療や支援物資の配布を行いました。

今回の協力協定書の締結により、今



AMDAが贈呈したボートで活動中のチーム

後の緊急救援時にAMDAとTAEMが協力して医療支援活動を行うことが約束されました。AMDAが調達した洪水時の巡回診療のためのボートは国立ラチャウィティ病院に保管されており、必要に応じて使用できるように維持管理されています。

フィリピン・ミンダナオ島洪水緊急医療支援活動



支援活動をするAMDA菅波医師（中央）

フィリピンでは、2011年12月16日から17日にかけて台風21号が発生し、死者数1,200人を超える災害となりました。

AMDAは12月21日から2012年1



支援物資を配布するマジョリ調整員（左）と武田看護師

月16日までの期間に3回に分けて緊急医療チームを派遣。フィリピン支部、インドネシア支部との多国籍医師団を結成し、医療支援活動を行いました。日本からはAMDAグループ代表・菅波茂医

師、武田未央看護師、調整員として倉敷フィリピンサークルに所属する大山マジョリさんとAMDA本部のニティヤン・ヴィーラヴァーグの4名が参加しました。フィリピンでの災害に対して、岡山県内に在住するフィリピンの方とともに活動するのは、2009年台風16号被災地支援に続き2例目となります。

今回の巡回診療ではフィリピン軍や地元医師らと協力して活動を行い、合計6000人以上の患者を診察しました。その他医薬品や生活支援物資などの提供も行いました。



民族衣装に身を包む佐藤さん（左端）

に付けたいと今まで以上に強く思うようになりました。

4月から私は岡山大学で看護学を学びます。自分の希望する大学で学べる幸せとバングラデシュでの経験を忘れず、一日一日を大切に過ごしたいです。さらに、看護だけでなく文化や言語など幅広く知識を深め、いつかバングラデシュの人たちに恩返しをしたいと思います。

バングラデシュ訪問と自分のこれから

岡山一宮高等学校3年（2012年3月卒業） 佐藤 亜紀子

私は去年の春、バングラデシュへスタディーツアーに参加しました。将来、発展途上国で働きたいと考えていたので、実際に現状を見てみたいという思いから参加しました。

バングラデシュへ行く途中は途上国を初めて訪れる事への不安と期待で複雑な気持ちでしたが、現地スタッフの親切な対応や学校で子ども達と交流するうちに緊張もほぐれていきました。初めて見ることや知ることがたくさんあり、すべてが新鮮

でした。学ぶことがたくさん詰まった毎日でした。ホームステイをして現地の暮らしを体験する中で、人々の生活向上のために医療が果たす役割の大きさを実感すると共に、水や道路などの環境面の改善など多くの問題があることを知りました。また、現在実施されているマイクロクレジットの様な人々の生活を支え、少しずつ変えていく仕組みを知ることができました。今回の訪問で、改めて今の自分の無力さを感じ、看護師として技術も知識も深く身

各民族グループ地域における無料白内障手術

2009年に30年近い内戦が終結したスリランカの復興支援事業として、AMDAではシンハラ、タミル、イスラムタミルの3民族グループに対して、平等に医療を通じて和平を働きかけるAMDA医療和平プロジェクトを実施しています。その一環としてスポーツ交流事業や無料白内障手術事業を実施しています。

「ローカルイニシアチブ」、「相互扶助」というAMDAの基本理念のもと、ス



↑ 手術を待つ患者たち
↓ 協力して手術を行う台湾とスリランカの医師たち



リランカ地元医療機関、スリランカ眼科大学、AMDAスリランカ支部及び台湾IHA（台湾国際医療衛生行動チーム）などの協力を得て、2011年には、北部タミル地域のジャフナ、ポイントペードロで134人、東部パナドゥラで70人に無料白内障手術及び術後健診を2回に分けて実施しました。そして今年2月27から29日には第3次無料白内障手術として東部トリンコマリーで30人の患者に同様の手術を行いました。

手術はトリンコマリー市の国立病院にて、地元医師とAMDA台湾支部長含む3人の医師等によって行われました。30人の患者全員が深刻な白内障を患っており、手術には高い技術力が求められるものでしたが、約20人の医療スタッフの協力のもと、全手術が無事成功しました。この事業のために、支部長が眼科医であるAMDA台湾支部からは、様々な薬や機材などの寄贈を受けました。

■ AMDAでは、内戦停戦中の2003年から2006年まで、相対する3グループの各地域、ハンバントタ（南部/シンハラ民族地域）、キリノッチ（北



↑ 巡回レントゲン車（2003～2006）
↓ 巡回保健教育（2003～2006）



部/LTTE・タミルイーラム解放の虎の支配地域）、トリンコマリー（北東部/イスラムタミル地域）で、巡回診療や巡回保健教育活動を実施してきました。2004年末に発生したスマトラ沖大地震津波の被害により各地は津波被災地となりました。津波被災直後から北部・北東部・南部の避難所で心のケアや巡回保健教育を行いながら、食糧や生活物資の配布をしました。

AMDA 神女クラブから

(神戸女子大学)

(財) 学生サポートセンターから助成
学内でも学生表彰(団体)受賞

AMDA 神女クラブクラブ長 田中 碧

こんにちは、AMDA 神女クラブです。神戸女子大学のAMDAクラブですが、AMDAのボランティア精神に共感した先輩たちが2006年に創部しました。まだ6年の若いAMDAクラブですが、これまでの活動が評価されて(財)学生サポートセンターの「学生ボランティア団体助成」事業で、2011年度助成団体に採択されました。また、学内でも2011年度学生表彰(団体)を受けることができました。これもAMDAグループの皆さまのご支援があったからこそと心よりお礼申し上げます。特にAMDA兵庫県支部の皆さまには大変お世話になっておりますが、このような報告ができて



左から波田重照学長、藤川美美さん、田中碧さん、クラブ顧問吉岡教授

とてもうれしいです。

私たちは医療分野を専門に勉強をしているわけではありませんが、私たちにできる国際貢献、人道支援をということで、主に募金活動と大学祭参加を中心に活動してきました。先輩によると、中国四川省やハイチでの大震災では、他学生にも呼びかけて学内募金活動を行ったそうですが、「学長先生も募金活動に参加して下さったことはうれしいサプライズだった」とのことです。昨秋の大学祭での東日本大震災支援募金活動では、地域の方々からもご協力

をいただきました。小さな女の子が募金してくれる姿はほほえましいものでした。また大学祭では、AMDAグループの活動やAMDA兵庫県支部のネパール子ども病院支援活動のパネル展示やバザーを行って協力を呼びかけたりしました。大阪で毎年開催されるワン・ワールド・フェスティバルではAMDAブースのお手伝いをさせていただいて、とても刺激になっています。月2回のミーティングでは、AMDAジャーナルなどで勉強会をしたり、海外のAMDA支部を訪問してみたいな、と語り合ったりしています。

まだまだささやかな活動ですが、この度の助成金でクラブ旗と腕章を作成することしました。ちょっと誇らしい気がしています。これを機に改めて活動の幅と輪を広げていきたいと思っています。これからも応援、よろしくをお願いします!

< 5P からのつづき >

◆この度は、奨学金のご支援本当にありがとうございました。東日本大震災を経て、人の命の尊さや、当たり前前の日常がいかに幸せだったかということ強く考えさせられました。そして、薬剤師になりたいという思いが日に日に強くなっていきました。震災の影響で、家庭の経済状況が悪化し、薬学部への進学を諦めようとしていた矢先の募集でした。私の住む南三陸は、津波で壊滅的な被害を受けたため、アルバイトをする場所もなく、足りない学費を自分で補うことができないことが、すごく悔しかったです。何より夢を諦めたくないという気持ちが強かったため、すぐに応募し、奨学金をいただきました。しかし、どうしても薬学部に進学する学費を揃えることができなかったため、家族と相談し、専門学校に進学することにしました。そして、昨年秋にAO特待生試験を受け、仙台の専門学校に進学することが決定しました。

私は東洋医学に興味があり、薬学部に進学したら積極的に漢方についても学びたいと思っていました。薬学部に進学することができなくなった今でも、東洋医学や漢方について学びたいという気持ちに、変わりはありません。だからこそ私は、一般用医薬品の他に、漢方についての授業がある専門学校に進学することにしました。また、専門学校で取得できる資格はもちろんですが、独学でもいくつか資格を取得したいと思っています。

将来的には、専門学校で学んだ知識や、取得した資格を活かし、日々の生活から病気を未然に防ぐという形で人の役に立ちたいと思っています。できることは微力かもしれませんが、自分が今できることから全力で取り組んでいきたいです。1日1日を大切に、支援していただいた奨学金を無駄にしないよう、夢に向かって2年間精一杯学んでいきたいと思っています。

◆避難所生活を送っていた昨年3月、私は看護師になるという夢をあきらめなくてはならないかもしれないと思っていました。

しかし、両親は私を看護学校に進学させてくれました。「やれるだけ頑張れ。」そう言って背中を押してくれました。それから受験勉強と真剣に向き合いました。いつも丁寧に添削指導をして下さった先生方、私の相談を自分のことのように聞いてくれる友人、本当に多くの人に支えられ、何とか第一志望校に合格することができました。

幼稚園から高校まで私はずっと地元で育ってきたので、正直新しい土地での一人暮らしや生活への不安と期待は半々というところです。

看護学校では、高校時代に学んだことは異なる様々な分野を学ぶことになりました。それらの一つ一つを吸収し、患者さんをはじめ、現場の看護師の方、同じ夢を目

指す仲間とふれあい、人間性を磨いていきたいと思っています。

誰かに元気になってもらいたい、誰かの役に立ちたい、私は以前よりもこのように思う気持ちが強くなりました。

やっと看護師になるためのスタートラインに立てた今、1日1日を大切に過ごし、いるだけで安心感の理想の看護師を目指して日々努力していきたいと思っています。

◆私は3月11日に起きた東日本大震災の時、多くの怪我人を前に助けたいと思いました。どうしたらいいかわからず、何もできませんでした。その時助けるためには知識がいることが分かり、助けられる力を得たいと思いました。目の前で困っている人の役に立つために勉強をして自分を成長させたいと思い、看護師を志望しました。そしてその時、将来は看護師になって多くの命を救い、患者さんに元気を与えるという目標ができました。

私は4月から准看護学生になります。入学後は目標に向けて一つひとつの勉強に真剣に取り組み、医療技術を向上させていきたいと考えています。また、患者さんに元気を与えるためには、私が常に笑顔で積極的にコミュニケーションをとることが重要になります。様々な年齢にも対応できるよう、医療面の他にも多くの知識を身につけたいと思います。

将来、多くの命を救い、元気を与えられる看護師になれるよう、頑張っていきたいです。

◆私は将来、作業療法士になって、体の不自由な人や困っている人を助ける仕事に就きたいと思っています。なぜなら、昨年の3月11日の東日本大震災の時、全国のみなさんからいろいろな手助けをいただき、人々のありがたさや、困っている人への支援の大切さが身にしみて感じられたからです。

ですが、作業療法士になる道は、そう簡単ではありません。技術はもちろんですが作業療法士はコミュニケーションが多くとられる仕事なので、人との関わりあいを大事にしなければなりません。ですから、私は、日々の日常生活から他人に思いやりをもって行動していきたいと思っています。

私はこれから3年間、専門学校に通って基本的な知識や応用能力を身に付けて、3年後の国家試験に絶対合格したいと思います。そして、一刻も早く困っている患者を助けたいです。今までのご支援ありがとうございました。

◆私の夢は、臨床検査技師になることです。3月1日、私は高校を卒業し、その夢への第一歩を踏み出しました。春からは埼玉の専門学校に通い、夢を叶えたいと思っています。

2011年3月11日に起こった東日本大震災で、私は一度この夢を諦めました。全

てのものが流され。絶望感でいっぱいでした。そんな時に、将来のことを考える余裕もなく、夢を諦めていました。しかし、たくさんの方々が支援をしてくださって少しずつ将来のことが考えられるようになり、私はやっぱり臨床検査技師になりたいと思いました。

たくさんの方々のおかげで、私はまた夢を持つことができ、夢を叶えるための第一歩を踏み出すことができました。専門学校では、たくさんの方々のことを学び夢を叶えたいと思っています。臨床検査技師は、病気の診断や治療方針の決定、重大な病気の早期発見など重要な役割を担っているため、正確かつ迅速に検査結果をだし、たくさんの方々の役に立てるよう頑張りたいと思います。人の命に関わる仕事だという自覚をしっかりと持ち、夢を叶えるためこれからも頑張っていきたいと思っています。

◆あの3月11日の東日本大震災から早1年が経ちました。私の中の何かが、あの日からずっと止まっているように思います。無事大船渡高校を卒業し、今は後期試験の合格の結果を待っています。

私は小学校4年生の頃から医者になりたいと思い始め、常に目標達成のために努力してきました。生家が寺であったため、幼い頃から「命」とは何か、「生きる」ということはどういうことなのかということを知りながら育ち、医者という職業に魅力を感じたのです。後期試験は看護学部を受験しました。矛盾しているようですが、国立の医学部を推薦で受験し、不合格となり、私立2校医学部を受験して不合格となった時、何故努力が報われないのだろうと挫折しそうになってしまった際に、叔母からいただいた助言により、前・後期共看護学部を受験することにしました。「医者だけが医療の道なのか？そしてあなたは医者になるためだけでなく、合格するために勉強している意味があるの？」という言葉でした。この言葉を自分なりに受け止めて、医者という職業しか眼中になかった私は看護師、保健師等、様々な医療系の仕事を調べた結果、そのように決めたのでした。医者になることを諦めたわけではありませんが、経験してみなければどうなるかわからないのですから、看護学部で合格できたならば看護師免許を取得し、不合格であれば予備校へ行き、医学部を目指したいと考えております。(※)

高校を無事卒業できたのも、自分の将来の目標を達成するために必要な大学進学、または予備校進学のことを考えられるようになったのも、全てAMDAからの奨学金があったおかげです。奨学金がなければ私は就職も視野に入れておりました。本当に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。これからも精進してまいります。

※福島県立医科大学看護学部に進学

講演を聞いて…… 中学生の感想文

AMDA では、さまざまな学校からの講演依頼をお受けしています。受講した中学校の生徒さんからの感想文の一部をご紹介します。(それぞれ抜粋)

◆岡山市立 富山中学校

「何かをしたい」「返返しをしたい!」と思うことのできる私たち人間は、本当にすばらしいなと実感しました。こんなにすばらしい心をみんなが持っているのなら、きっと今は遠くても、未来では色々な国の人と、みんなで助け合って生きていけると思います。今回の震災での支援は、その第一歩になったのだと思います。今回の震災で、きっと世界は一つになったと思います。私は私にできることをこれから精一杯し、被災者の方々の気持ちを考えながら、陰ながら支援していきたいと思っています。支援とは世界中が

笑顔の花で満開になるための第一歩なのですね。

◆岡山県立岡山大安寺中等教育学校

今回、AMDA のボランティアの方の講演会を聞いてたくさんの事を感じました。

昨年 3.11 の東日本大震災が起きた翌日には宮城などに行き、活動をしていることにおどろきました。AMDA の活動内容は、さまざまで、健康の為に体操を行ったり、食べ物の炊き出し、エリアの仕切り等、また子供に対してはロールケーキの炊き出し、おもちゃの提供を行っていて、被災した方々が、よりよく(できるだけ)生活ができるようにしているんだなと思いました。

“自分は被災した方々の為に全力を尽くす”というテーマと言ってもいいのではないかと僕は思いました。今回、この講演会でボランティア活動について、AMDA について詳しく知る事ができました。貴重な講演

会でした。今後、この事を生かせるようにしていきたいです。

◆玉野市立宇野中学校

AMDA は東日本大震災でもたくさんの支援をして今も東北地域の復興を目指して現地の人々を応援しているようです。そんなすばらしい団体 AMDA の本部が岡山にあることを知ってとてもびっくりしました。とても岡山の自慢になることだと思います。AMDA はいろんな地域へ行き「困っているときはお互いさま」でたくさんの命を助けていることを聞いてすごいと思いました。海外に行くと内戦や環境の悪い所などで平和に暮らすことのできない人々がいることを知りました。これを見て自分達はとても恵まれた国に生まれてきてよかったと思いました。これからは自分のことばかりでなく、世界の国々にもっと目を向けて何ができるか探しがんばりたいと思います。

■ご協力ありがとうございました

2011年12月1日～2012年2月29日分(敬称略)

2012年1月～3月の動き

<講演>		
1月19日	総合学習/アムダの東日本大震災への救援活動と国際貢献活動	岡山市立庄内小学校
1月21-22日	岡山シンフォニービル創立20周年記念事業/東日本大震災復興支援キャンペーン	表町第一開発ビル株式会社
1月24日	“いよう定”地域学 /アムダから学ぶ国際理解	広島県立福山葦陽高等学校校定時制
1月26日	彦崎小学校PTA教育講演会 /東日本大震災・復興支援について	岡山市立彦崎小学校 PTA
1月26日	総合学習/AMDAの活動内容、モンゴルの人々の様子	岡山市立秀田小学校
1月27日	健康増進セミナー /東日本大震災での緊急医療の現場から	姫路赤十字病院
1月30日	福山丸之内ロータリークラブ定例会/国際奉仕活動についての実例	福山丸之内ロータリークラブ
2月3日	高校生社会貢献活動後援会	岡山県立瀬戸高等学校
2月3日	職業調べの時間/国際協力にかかわる仕事	玉野市立宇野中学校
2月4日	人間力向上合宿/国際社会の中で青年経済人として	岡山商工会議所青年部
2月9日	第42回滋賀公衆衛生学会/災害発生時の地域保健のあり方について	財団法人滋賀県健康づくり財団
2月17日	立志式記念講演 /AMDAの活動について	倉敷市立福田中学校
2月23日	親任教諭研修講座/教師に求めたい教育の心・東日本大震災支援をとおして	倉敷教育センター
2月24日	呼吸器フォーラム/東日本大震災における緊急支援の現状	帝人ファーマ(株)
3月2日	地域保健総合推進事業発表会 災害と公衆衛生/被災地における公衆衛生活動	全国衛生行政研究会
3月3日	国際交流講座/救える命があればどこへでも	倉敷市立真備図書館
3月10日	高知県小児科医会総会・春季研修会/震災被災地における医療の展開	高知県小児科医会・アポットジャパン(株)
3月11日	がんばろう東日本!東日本大震災復興支援プロジェクトそうじゃ“絆” 基調講演 同プロジェクトそうじゃ“絆” 実行委員会	総社市社会福祉協議会
3月12日	AMDA 絆コンサート事前学習会/東日本大震災とAMDAの活動について	就実高等学校吹奏楽部
3月13日	国際貢献活動について考える/緊急救援・復興支援	岡山学芸館高等学校
3月13日	DAIANJI PROJECT(総合学習)/海外支援・ボランティア活動について	岡山県立岡山大安寺中等教育学校
3月15日	ボランティアについて学ぶ/東日本大震災の復興支援について	岡山市立富山中学校
3月21日	総合学習/国際協力について	玉野市立宇野中学校
3月24日	デモンストレーション授業オープニング講演	学校法人 岡山進研学院
3月25日	岡山市の公民館の充実をすすめる市民の会総会/震災とコミュニティの再生	岡山市の公民館の充実を進める市民の会
3月27日	瀬戸法人会/AMDAの存続意義と今後の展開	瀬戸税務署 瀬戸法人会
<イベント>		
1月21-22日	岡山シンフォニービル創立20周年記念事業 東日本大震災復興支援キャンペーン	パネル展
2月4-5日	ワン・ワールド・フェスティバル参加(大阪)	
3月9-11日	チャリティ洋蘭展(岡山)	
3月10-11日	花・緑ハーモニーフェスタ in 西川 東日本大震災活動パネル展(岡山)	
3月18日	AMDA 東日本大震災絆コンサート	広島
3月19日	AMDA 東日本大震災絆コンサート	岡山

ご案内とお願い

AMDA では、催事ご案内をホームページ、メールでお知らせしております。ご希望の方は member@amda.or.jp まで催事案内希望とお送りください。経費軽減にご協力をよろしくおねがいたします。

◆第 5 回 AMDA 市民参加型人道支援外交円卓会議

7月8日(日)1時より 岡山国際交流センターにて
AMDA グループの各法人からの活動報告を行います。
詳細は近くホームページで紹介しますので、ふるって
ご参加下さい。メールで事前のお申し込みをお願いし
ます。宛先アドレス member@amda.or.jp

◆兵庫県支部

5月5日(土)「アースデイ神戸」に出店

ネパール子ども病院支援や東日本大震災支援など、
AMDA 兵庫県支部の活動紹介を行います。詳細は、ア
ースデイ神戸のホームページ (<http://earthdaykobe.com/>)

支援者紹介

宮城県から感謝状をいただきました



多くの団体・個人からご寄付をいただきました



1.23 書道家小野田松濤様より



2.20 楽天銀行様より



3.15 倉敷・震災復興祈念コンサート実行委員会様より



第24回ヘルシーマジネーション 劉磊様(左)より指定団体としてご寄付を頂きました



2012.3.11 東日本大震災RNN(人道援助宗教NGOネットワーク)慰霊祭 黒住教日拝所にて真言宗、金光教、立正佼成会、天台宗、黒住教の各宗による祈りがささげられました。

岡山県総社市の多言語医療ガイド

総社市独自の多言語医療ガイドが、「AMDAグループと総社市との多文化共生に関する協定」に基づきNPO法人AMDA国際医療情報センターの協力で作成され、市内の全外国人世帯及び全医療機関に配布されました。英語、韓国語、中国語、スペイン語、ポルトガル語の5冊です。医療現場での意思疎通を円滑にするために役立つものになっています。



滑にするために役立つものになっています。

AMDAグループ代表代行でAMDA国際医療情報センター理事長の小林米幸医師が、3月26日に「かながわレッドリボン賞」を受賞しました。

この賞は、神奈川県内において、HIV・エイズの拡大防止と感染者・患者の皆様に対する偏見や差別のない社会をつくる「かながわレッドリボン運動」を推進し、多年にわたる功績が認められた個人や団体を表彰するものです。

インターン紹介

*河内 亜希さん



昨年よりお世話になっております河内 亜希(かわうち あき)と申します。現在、岡山大学歯学部にて在籍しており、卒業後は口腔疾患の治療や口腔衛生に関する活動を通して国内外の医療に貢献したいと考えています。学業に専念するため3月末で退職致しましたが、4月より引き続きインターンとしてAMDAで勉強させて頂くこととなりました。国際医療支援分野の実践的な経験を積むことのできる素晴らしい環境で学ぶ機会を頂きましたことを大変感謝しております。

「AMDA 被災地へ!—東日本大震災国際緊急医療 NGOの活動記録と提言」増刷

「AMDA 被災地へ!—東日本大震災国際緊急医療 NGOの活動記録と提言」(菅波茂編著)の2版第1刷が3月30日刊行されました。AMDAが掲げる信念のもとに集った国内外の人々が東北の被災地へ!ボランティア、ご支援者、被災地の方々、計77人からの寄稿、170枚を超える写真とともに、緊急援助の現場から発信する未来への提言となっています。



全国の書店、岡山県内書店(ジュンク堂、紀伊国屋書店、丸善、他)、インターネット(Amazon等)で発売中。お問い合わせはお近くの書店まで。AMDAでも受付中。(ISBN 978-4-7979-8735-5 小学館スクウェア 定価 1,500円税込)